経済アラカルト ㊼

忘れられない2011年

東洋学園大学現代経営学部　教授　**木村　壮次**

2011年は忘れられない年となった。３月11日の東日本大震災，それに端を発した福島原発事故に伴って広がった放射能汚染，さらに原発稼動停止による日本全土の電力不足。８月，９月には台風12号と15号によって奈良，和歌山県などで記録的な集中豪雨による災害にも見舞われた。こうした中で，節電意識，「もったいない」感覚が一挙に高まったが，今後の日本の再生にとっては欠かせない大切な意識の変革である。

９月には野田新首相が誕生した。国民の期待を担って2009年10月に発足した民主党政権において３人目であり，コロコロ代わった自民党政権末期と変わらない。こうした状況については，国内だけでなく，海外の評価も厳しい。この間，対外関係では，特にアメリカとの信頼関係が危機に瀕してしまった。それに加えてリーダー不在を見透かされ，尖閣諸島，北方領土などで，中国，ロシア，韓国には日本の正当な主張が無視され，されるがままの状況となってしまった。確固としたリーダーがいなければ，何事もダメとの考えが国民の間に急速に高まったのも2011年であった。

民主党最初の鳩山内閣は，所信表明演説で「戦後行政の大掃除」のキャッチフレーズで自民党政権との違いを強調し，続く菅首相は「強い経済，強い財政，強い社会保障」と中身のない抽象的な理念を掲げていた。どちらも世論受けを狙った言葉であった。また「普天間基地移転」「脱原発」を始めとして，「思いつき的」発言も多かった。

野田新首相のキーワードは，「正心誠意」で，幕末に活躍した勝海舟の言葉だそうだ。一般に使われている「誠心誠意」とほとんど同じ意味だが，「奇を衒った」ように思える。

言葉の重みについて，『論語』は「昔の人が言葉に慎重だったのは，自分の言葉が実行に追いつかないのを恥としたためである」（里仁４－22），「誠実な人間なら，出来もしない大ぼらを吹くのを恥じる」（憲問14－29）と述べている。これは，現在でも大切な教えである。

新首相は「東日本大震災からの復旧・復興はこの内閣が取り組むべき最大，かつ最優先の課題だ」と位置づけたが，当然の優先順位である。私も知人を頼って，津波によって大打撃を受けた岩手県の陸前高田，宮城県気仙沼を訪れたが，テレビの画面と全く違った恐ろしさ，虚しさを心に刻み，改めて現政治家の無能力さを感じてしまった。

復旧・復興が大幅に遅れた最大の要因は，「官僚排除」によって，行政が機能しなかったためである。官僚の専門的知識を素早く活用していたならば，もっと早く生活の目途が立ったに違いない。経済学者や評論家のなかには，「東日本大震災による復興需要の増加はデフレ脱却の絶好のチャンスだ」，「将来を見据えた復興のために規制緩和を強めるべきだ」などの意見もあるが，それは今現在生活している人の過酷な環境，虚しさを知ろうとしない人たちである。政府は現地の人たちの声を早く実行に移してほしい。

野田新首相は「成長なくして財政再建なし」と，成長重視の姿勢も見せた。これまでの分配重視から転換した発言だが，官・民の知恵を結集して大震災，電力不足，円高などによって加速している産業空洞化対策も合わせて実行しなければ，成長重視による日本再生はおぼつかない。

日本再生の一つのヒントは，沢主将が率いたサッカー女子日本代表の「なでしこジャパン」にある。過酷な環境の中で，2011年のワールドカップ（W杯）ドイツ大会で優勝した後，９月に中国で開催された，ロンドンオリンピック出場権を見事に獲得し，国民に再び勇気と希望を与えてくれた。「なでしこ」効果によって，スポーツ庁の設置を検討しているようだが，ぜひとも実現してほしい。スポーツの国際大会は，国民の一体感を醸成する。また個々のスポーツにおいては，子どもたちにも，頭でっかちでなく，実行力の大切さに加えて，規律・マナーを教えることもできる。スポーツに対する社会的評価を高めることは，長期的な日本の再生にとって極めて重要である。

※記事・写真等は（財）建設物価調査会の許諾を得て転載しています。
著作権は（財）建設物価調査会に帰属。記事、画像等の無断転載は一切お断りします